

新たな水田複合経営の確立

課題番号 28

具体的推進事項：農作物の安定生産と省力化

対象：雨竜町中島地区（9戸）

1 活動の背景

中島地区の概要

経営形態：水稲を主体とした複合経営
 経営規模：平均27.5ha、水稲作付面積は平均19.4ha
 経営主年齢：平均47.7歳。若手経営者と後継者が比較的多い地域



地域の現状

基盤整備が施工されており、大区画化したほ場を活用した大規模な稲作が始まる

規模拡大に伴って水田転作が増えている

若手農業者を中心に規模拡大の意志が強い

地域のニーズ

大規模稲作化に伴い、農作物の省力化技術や、スマート農業技術の導入・定着が必要

家族経営での限界である30ha規模になった際の経営で転作をどうするのか？

活動内容

省力化技術の定着と水田基盤整備後の安定生産の支援

ドローン等のスマート農業の推進・技術支援

担い手の経営管理能力向上に向けて、経営分析ツールを活用して生産管理を支援

2 活動の経過

水稲省力化技術の定着



高密短の試験展示ほ設置

※ 高密短とは？

水稲の高密度播種短期育苗技術の略称。苗箱に通常の倍以上の種子をまき、通常より短い育苗期間で移植する新技術。経費と労働時間が削減が見込めるが、安定生産に課題がある。

水田基盤整備後の水稲安定生産



基盤整備後の土壌調査

スマート農業の推進



ハウス環境調節システム視察

3 成果の具体的内容

水稲省力化技術の定着

高密短に取り組んだ農家は育苗経費で50%、全体で経費が15%削減され、育苗期間を中心に労働時間の削減効果が確認できた。さらに、雨竜町平年値と同等以上の収量が確保できた。

表1 高密短導入による労働時間と経費削減効果

区分	労働時間(hr/ha)			経費(千円/ha)		
	育苗	本田		育苗	本田	
高密短	61	18	43	402	77	325
成苗ポット	80	34	46	476	156	320
削減率	23%	46%	6%	15%	50%	-1%

※ 導入農家の経営を参考に試算
 ※ 経費は減価償却費・公課諸負担金は含まない。

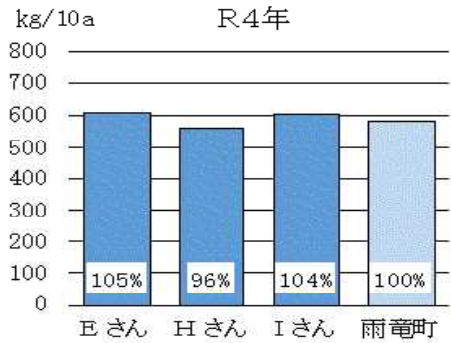


図1 実施農業者の収量と町平年対比



水田基盤整備後の水稲安定生産

土壌診断結果に基づき提案した施肥が実施された。生育は近隣の水田と比べても大きな差はなく、2戸で雨竜町平年値と同等以上の収量が確保できた。

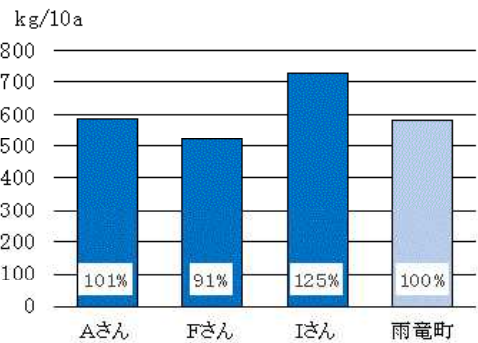


図2 実施農業者の収量と町平年対比

スマート農業の推進

今年度は4戸でスマート農業技術が活用された。ドローン防除で病虫害も軽減でき、農業者も満足の結果となった。



4 今後の課題と対応

省力化技術導入による経営変化の確認
 基盤整備後の施肥設計支援



ICT技術導入・活用の支援
 経営管理能力向上

古き知恵 新しい技術 女性 も子供 も活躍できる地域づくり